

ぎふ政治塾 第3回講座レポート

塾生番号 032 近藤 秀一

【第1部】

小野田参議院議員からは、お金を使わずに選挙を勝ち抜く方法と、政治家として地域の人々の声に惑わされずに、信念をもって厳しい道を進む重要性を教えてくださいました。

入管法については、我が国の現時点での問題点を明確に教えてくださいました。段階的にまとめてみると、技能実習生の滞在期間は3年から5年に延ばすことと、それと並行して家族の帯同を認める案が急浮上しているとのことでした。

しかし、それを認めれば安易に移民が可能になり、我が国はまだ移民政策を正面から議論はしていないという問題があります。今後は移民政策の是非を議論する必要があると思います。

ただし、この問題は我が国の経済界から、人手不足を解消するために要請されていることです。注意しなければならないのは、同様な状態になりつつある台湾、韓国も技能実習生を大量に求めているということです。速やかに我が国は方針を明確にしなければ、経済が困窮してしまう可能性もあり得ると思います。

【第2部】

我が国の政治の足跡を歴史的に辿っての講話でしたので、大変勉強になりました。

戦後の自民党政治と政治改革についても詳細にお話しくださいました。特に印象に残ったのは、これからの時代は有権者の皆様との間の約束が最重要であるということをおっしゃっていただいたことです。

つまりそれはマニフェストのことであり、マニフェストを使って、実現可能な内容を約束していく政治が不可欠であるということをお学びました。

私は国家の財政破綻について質問をしました。昭和39年の東京オリンピックの翌年には、未曾有の不景気に陥りました。その時に福田大蔵大臣は財政法の中の建設国債の発行を特例法として、1回限り認めるよう国会に提案し、その不景気を乗り越えました。

しかし、それ以降もその特例法は生き続けております。その累積赤字が1,100兆円を超えようとしているのです。したがってその特例法の廃案を全国会議員と国民に望みたいと考えます。それがまず第1歩ではないでしょうか。